

社会福祉学会 News letter

第17号 2015年11月10日発行 長崎国際大学社会福祉学会 (代表・豊島 律)

長崎県佐世保市ハウステンボス町 2528-7 長崎国際大学 豊島 律 研究室 TEL0956-20-5559



社会福祉学科のこの頃



暑かった夏も終わり朝夕は涼風が吹くようになり年度は後期へと歩を進めました。

実習に行っていた学生も学校に帰ってきて再び活気を取り戻し、また、4年生の社会福祉士等国家試験受験予定者は勉強の「追い込み」で緊張した面持ちで勉強に取り組んでいるという社会福祉学科の今日この頃です。

『ニュースレター』読者のみなさまお変わりありませんか？

先の3月に柴田哲雄先生・友池敏雄先生とのお別れがありましたが、4月には武藤大司先生・大西良先生・佐々木隆夫先生という社会福祉プロパーの三先生を新たにお迎えし、社会福祉学科はいま新たな活気と空気がみなぎっています。

さてここで、社会福祉学科における最近の話題をいくつかお知らせしたいと思います。

今年度は、社会福祉士への学びを基礎に多彩な選択肢を示すことで社会福祉学科における学びの魅力を豊かにしていかうと考え、「スクールソーシャルワーカー」と「福祉心理士」への道を開きました。いくつかの中高生をめぐる不幸な事件をきっかけに、文部科学省では「チーム学校」構想を描きスクールソーシャルワーカーを5年で1万人に増やす意向を示しています。そうした社会的要請と高校生のニーズを勘案して、来春より「スクールソーシャルワーカー（日本社会福祉士養成校協会認定資格）教育課程」を開設すべく申請を行いました。また、社会福祉施設で活躍する心理職を期して、日本福祉心理学会認定の「福祉心理士」も取得できるよう情報提供することとしました。

また、卒業生とつながりあうためのツールの必要性を感じてきましたが、近々、卒業との連携のための「フェイスブック」を立ち上げることにいたしました。

2016年度からは、様々なお知らせや情報交換や当『ニュースレター』もWEB上でお示しできたらと考えています。私たちは常日頃から卒業生のみなさまとの連携の重要性を感じております。実習・就職のみならず、現場実践を踏まえての研究の深化という観点からです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

社会福祉学科長 豊島 律

第12回 長崎国際大学社会福祉学会総会及び第13回研究発表会

◎日時：2016年2月6(土)13時～17時

◎会場：1101教室

◎内容：①第12回 学内学会定例総会
②研究発表(修士論文など)

③講演:

「まちづくりにおける福祉教育と民生委員の役割」

講師：山本 主税氏

(長崎国際大学 社会福祉学科元学科長・教授)

お知らせ

社会福祉学科のお知らせ

この度、社会福祉学科を卒業したみなさまや社会福祉学科と縁のある方々に対し、情報を発信していくべく、[facebook](#)を立ち上げました。みなさま方が在籍していた頃と変わったこと、変わっていないこと。[facebook](#)にてご確認ください。そして、是非是非コメントもお寄せください。

もちろん、在学生のみなさんもチェックしてくださいね。

検索は「[長崎国際大学 社会福祉学科](#)」でお願いします。



研究室レポート：武藤研究室

武藤室便り

はじめまして。兵庫県神戸市から参りました武藤大司と申します。よろしくお願ひします。今は縁あって大学教員をさせていただいておりますが、私の場合、大学に入るまでには挫折の連続で、3勝28敗というとても長い道のりがありました。2年の浪人生活でもなお、すべり止めの大学さえ落ちて途方に暮れてしまい、夜間制大学の願書を集めつつ、3浪目のお許しを親にお願ひした矢先、ようやく法学部の合格通知を手に入れました。ゼミは刑法、サークルは法学研究会に所属していました。当時の研究テーマは、安楽死、尊厳死、インフォームド・コンセント（十分説明を受けたうえでの同意）といった医療問題を刑法学的視点から見つめるという分野で、現在の研究分野である権利擁護にも通じています。

社会福祉の道に進んだのは26歳の時です。働きながら中学高校の国語科教員免許・社会福祉士・精神保健福祉士など数多くの資格を取得し、通信制大学院修士課程にも通いました。社会福祉実践は主に知的障害者施設・身体障害者施設・精神障害者施設などのソーシャルワーカー職や法人の管理運営、人事・研修・研究部門などを計19年間経験し、その間地域リハビリテーション関連の事務局や社会福祉士として認知症高齢者の成年後見人も受任しました。

大学専任教員としては4年目のまだまだ駆け出しレベルです。幼い頃に見た中村雅俊さん主演の学園ドラマ「われら青春」を見て以来、教員にそこがれを持つ私は、青春ドラマそのままのようなキャンパス生活は楽しくてしかたありません。毎日が「青春」です。

現在の研究テーマは障害児・者福祉を中心とするソーシャルワークと権利擁護です。対象者別でみた場合、実践現場の経験上障害者福祉が主な専門分野となりますが、ソーシャルワーク・権利擁護ともに各々対象者の共通する部分を研究しております。ソーシャルワークは社会福祉実践とも訳されるように、社会福祉実践がベースの学問領域ですので、実践現場を経験した者として、力を尽くしていきたいと考えております。

最後になりますが、皆様方からのご指導・ご鞭撻を賜りながら成長していければと存じますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(武藤 大司)



研究室レポート：大西研究室

大西室便り

皆さま、こんにちは。大西良と申します。

今年の4月より、本学社会福祉学科の講師として着任することになりました。

どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、簡単に自己紹介をさせていただきます。私の出身地は、福岡県直方市です。えっ！「直方」って何て読むの！？と思われる方もいらっしゃるかと思います。読み方は「のおがた」です。北九州市に隣接する人口6万人弱の小さな田舎町です。直方と言えば、大相撲の若貴兄弟と同じ時期に活躍した元力士の「魁皇」（現在は、浅香山親方）が有名です。JR博多駅と直方駅を結ぶ特急列車にもその名“かいおう”が使われています。その他にも、直方石炭記念館や隣町の木屋瀬（こやのせ）には長崎街道の宿場町跡など、歴史的な建物や街並みが残っています。ぜひ皆さまも、直方にお越しください。

ところで話は変わりますが、本学での私の担当科目は、「精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」、「精神保健福祉制度論A・B」、「精神保健福祉論」、「精神保健特講」（大学院）などです。また研究としては、これまで、小・中学校等の学校現場において不登校や虐待（ネグレクト）、貧困、障害などの様々な生活課題に直面する子どもたちとかかわってきたこともあり、その経験をベースに、学校・教育分野における精神保健福祉士（メンタルヘルス・ソーシャルワーク）の専門性について研究しています。また、最近では子どもの貧困問題に焦点を当て、貧困の負の連鎖を断ち切り、貧困を背景とする様々な不利や生活課題に苦しむ子どもへの具体的な支援について研究し、地域における子ども支援システムの構築に寄与することを研究目標としています。

私の教育におけるモットーは、「学生と共に動き、学び、楽しむ」です。学生たちと一緒に色々な地域活動を実践していきたいと思っています。皆さまには、これから様々な面で世話になるかと思いますが、今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

(大西 良)



研究室レポート：佐々木研究室



佐々木室便り

みなさん、こんにちは。

本年4月より、長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科に着任しました佐々木隆夫と申します。

まず、私は神奈川県出身で、主に四国の愛媛県と徳島県で教員生活を送ってまいりました。そのため、長崎県のみならず九州の地は、学会や旅行で何度か来たことがあるものの、住むことや教えることも初めてであり、当初は不安がいっぱいでした。しかし、佐世保は気候や食事もよく、毎日充実して暮らすことができている。加えて、長崎国際大学の先生および職員の方々、学生の皆様方といった関係者の皆様にご温かく迎えていただき、安心して職務に励むことができている。皆様方が、一生懸命つくってこられた社会福祉学科の思いを精一杯受け止め、社会福祉学科をより良い学科にしていくよう、今後とも努力していく所存です。

次に、担当科目について記載いたしますと、「福祉経営論」、「社会福祉発達史」をはじめとして、各種の実習演習科目のほか、「専門演習」、「専門基礎演習」、「卒業研究」を学部で担当し、大学院で「社会福祉史特講」、「福祉政策特講」、「福祉経営特講」、「事例研究（福祉経営）」といったように、福祉における政策、経営（いわゆるアドミニストレーション）を中心に担当しております。「お堅い人」と思われるかもしれませんが、福祉マインドを大事にして、陽気に、かつ熱意をもって指導を行っております。

キャンパス内では、「夏でもスーツ、ネクタイ着用、腕にはカフスポタンで、ポケットチーフを差している」と広まっており（実際そうなのですが）、ある意味で珍しい存在かもしれません（正面から見ると一目瞭然です）。

皆様方が大学にいらっしゃった際には、どうぞ気軽にお声をおかけください。今後とも、なにとぞよろしく願いいたします。

（佐々木隆夫）



「日々スキルアップに 励んでおります」

7期生 黒島 拓



大学を卒業と同時にマクドナルド日本法人の昭和フード株式会社に就職し、現在はマクドナルド佐世保早岐店に勤務しています。

初めての勤務先は、マクドナルドイオン大塔ショッピングセンター店で半年間勤務し、その後マクドナルド大村店で2ndアシスタントマネージャーに任命されました。

現在は、1stアシスタントマネージャー（副店長）の任命を受け2013年10月に新規オープンしたマクドナルド佐世保早岐店にて勤務しております。

職場では、お客様の接客、従業員の教育指導や店舗の経営管理・運営など広い範囲の技能が求められており、職能評価のシステムやマニュアルの遂行状況などの管理面での仕事もあり、日々スキルアップに励んでおり、充実した日々を送っています。また、佐世保早岐店には多くの長崎国際大学生がアルバイトをしており、今でも大学の後輩とコミュニケーションがとれているのも嬉しく思います。

大学の時は、バスケットボール部に所属していました。また、坂本ゼミでの友人など今でも交流がある友人ができて部活やゼミの仲間もたくさん作ることができました。就職試験のために一生懸命に勉強したことなど、4年生の時に特に充実していたことを思い出します。

お世話になった先生方、その中でも、いつも親身になっていろんな面でサポートしていただいた坂本先生には本当に感謝しております。

私は、もともと沖縄の出身なので、初めて長崎国際大学にきたときは、周りに街がなく驚いたことを思い出しました。しかし、大学の友人や仲間と学生生活を4年間過ごすうちに、そうしたこともしだいに気にならなくなり、大学・部活・アルバイトの両立ととても充実した学生生活を送ることができました。





「卒業してからの私」

7期生 高園 翔平

長崎国際大学社会福祉学科を卒業してからの私は、佐世保市の干尽町にある「社会福祉法人むすび会、おおぞら作業所」という障がい者の就労継続支援の事業所で支援員として働いています。具体的に、どのような仕事をしているかという、作業所内では、お菓子の箱折りや、電気治療器の付属品の生産、所外活動として除草や青果市場での野菜の計量・袋詰め作業等を通じて障がいを持った方達の生産活動にかかる知識及び能力の向上を目指しています。企業との連絡を行いながら、商品の資材発注や納品期日の調整など、福祉的な支援だけでなく一つの会社としての役割を持っています。働き始めた頃は、利用者の把握や、各商品の作業工程を覚えることに精いっぱいでしたが、年数を重ねるごとに任される仕事も増えてきました。

学生の頃に比べると、自由な時間も少なくストレスが溜まることも多いですが、会社での役割を理解してくると自然と行動できるようになり、仕事に対して責任感とやりがいを持つ事が出来るようになりました。休日は、大学時代の同級生とサッカー観戦や、居酒屋でお酒を飲みながら仕事の話や他愛もない話をして過ごすことが多いです。気心知れた仲間と過ごす時間は、とても充実していて仕事への活力になっています。

社会人として5年目となり、会社の中でも後輩に指導していく立場になっていきます。これからは、今まで以上に多くの事を身につけて一人の人間として成長していきたいと思います。



「夢を追いかけて続ける」

11期生 与那嶺真弥



私は与那嶺真弥を申します。現在、特別養護老人ホームサンホーム江上で介護の仕事をしています。私は幼い頃から「将来の夢は、お年寄りのお世話をすること」と周りに話していました。夢を追いかけて、九州文化学園で介護を学び、長崎国際大学で介護の周りにある福祉について学びました。福祉は介護に限らず、人と人、人と施設、人と病院などを繋ぐ仕事もあることを学び、夢が大きく広がりました。ですが、勉強するにつれやっぱり私は高齢者の方を自分の手で援助したい！と強く思いました。今はやっと夢が叶い楽しんで仕事をしています。

昨日まであまりご飯を口にしなかった方が今日は少しでも多く食べられたという喜びや、リハビリ中の方が昨日より一歩でも多く歩くことができるようになった喜びなど日々介助する中でやりがいを感じながら仕事をしています。このようなやりがいを感じられるのは介護の仕事ならではの事です。先日いつも一生に生活している入居者様から「あなたをいつも見ているけど、毎日笑顔で神様に見えるよ」と言われました。私はこの言葉を聴いて本当に言葉では表せないくらいの嬉しさが溢れてきました。私達にとっては同じような毎日ですが入居者様にとっては一日一日が大きく変わり、そんな毎日に私が携わって頂けていることに感謝しながら仕事をしています。人を飽いてとする仕事ですからストレスとも戦っていますが、休日には友達と美味しいものを食べに行ったり、旅行にいったりとリフレッシュしながら現在仕事をしています。

「介護の仕事をしています」といほとんどの人から「大変な仕事ばよくしよるね」といわれます。全く動けない人をお風呂に入れたり、オムツを替えたりする仕事という印象が強いからだと思います。きつくない仕事という嘘になりますが、それ以上に、介護現場で働く私にとってお金では買えないほどのやりがいを感じながら仕事をしています。

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に向けて

今年度も、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験が2016年1月23日・24日に予定されています。今年度、本学科からは45名程度の4年生が社会福祉士国家試験を受験予定(うち精神保健福祉士とのダブル受験9名程度)で、ここへきて受験勉強にもようやく本格的にエンジンがかかり始めたかな、という状況です。

昨年度の本学科現役学生の社会福祉士国家試験合格率は40%(25名中10名合格)で、本年度はそれを上回りたいと考えています。ただ、それ以上に重要なのは、学生1人1人が明確な目的意識のもとに、いかに主体的に学習に取り組んでいくか、そしてそれをいかに支援していくかだと思いま

す。私たち教員も、そのための体制づくりに引き続き全力で取り組んでいきたいと思っています。

ところで、本学科では、現役の学生ばかりでなく、卒業後、引き続き資格取得を目指しておられる卒業生のみならずとの連携や支援にも取り組んでいきたいと考えております。まずは模擬試験や総合演習(国試対策を主とした授業科目)に関する情報発信から始めていきたいと考えておりますが、そのほかにもご意見やご要望がございましたら、ぜひ本学科までお知らせください。どうぞよろしく願いいたします。

国家試験合格支援委員長 脇野幸太郎